

チュチェ思想と朝鮮の統一原則

ベルギー朝鮮友好協会
ジョセフ・ボスイト

朝鮮民族は一つの領土で一つの言語と文化、一つの風習をもって数千年ものあいだ暮らしてきた单一民族であります。

朝鮮民族の歴史は自主性と主権のための人民の闘争の歴史であります。朝鮮民族は13世紀、モンゴル帝国の侵略に反対してたたかい、16世紀には日本の侍、1816年にはイギリス帝国、1846年にはフランスの侵略に反対してたたかいました。1866年米国侵略船シャーマン号が大同江をさかのぼって侵入したとき、朝鮮の愛国者たちによって撃沈されました。1910年から始まった日本による植民地化は1945年に朝鮮人民革命軍によって終息されました。

米軍は今も朝鮮の南半部を占領しています。米軍は高さ8m、長さ200kmもある障壁を構築し、この国を二分しています。

金日成主席は1972年5月3日、北と南の間の高位級政治会談に参加した南朝鮮側代表とおこなった談話で祖国統一の原則を闡明しました。

金日成主席は祖国統一の原則と憲章について明らかにしました。

金日成主席は次のように述べています。

「第一に、祖国の統一は外部勢力に頼ったり、外部勢力の干渉をうけることなく、自主的に実現すべきです。

...

第二に、思想と理念、体制の相違をこえて民族の大団結をはかるべきです。

...

第三に、祖国の統一は武力行使によらず、平和的で実現すべきです」

北と南が厳かに署名したこの共同行動の綱領は1972年7月4日に発表された北南共同宣言の基礎となりました。

北と南の間の緊張状態を緩和し、相互信頼の雰囲気をつくるために北と南は相手方を誹謗したり中傷したりせず、小規模であれ、大規模であれ、軍事的挑発を中止し、偶発的な軍事紛争を防ぐための積極的な対策を講ずることに合意しました。

断絶された民族的絆を復旧し、相互の理解をはかり、自主的平和統一を促進させるために北と南は各分野で多くの交流をおこなうことに合意しました。平

壤とソウル間の直通電話と北南協力委員会が開設されました。

2000年 6.15 北南共同宣言

金正日総書記と金大中大統領の平壤対面以後に署名した2000年6.15北南共同宣言で新しいものは北側が提起した低い段階の連邦制案と南側が提起した連合制案が互いに共通性があると認め、今後この方向で統一を志向させて行くことにしました。

宣言は二分された家族訪問団の交換のような実践問題を取り扱いました。

宣言では社会、文化、スポーツ、保健医療、環境などすべての分野における幅広い協力を決定しました。

2007年 10.4 宣言

金正日総書記と南朝鮮の盧武鉉が平壤で署名した2007年10.4宣言には実践的決定が幅広く明記されています。

宣言は「朝鮮西海に共同漁労水域と平和水域を規定する平和と協力のための特別地帯」を設けることに合意しました。また、宣言は「開城工業地区第1段階工事を完成し、文山とボンドン間の鉄道貨物輸送をはじめ、開城と新義州の間の鉄道補修を開始」することを合意しました。また「現在の停戦協定機構をなくし、強固な平和体制」を構築することについて合意しました。

2018年 4.27 板門店宣言

金正恩総書記と南朝鮮の文在寅は2018年4月27日、歴史的な「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」に署名しました。

北と南は停戦協定締結65周年になる2018年に終戦を宣言し、停戦協定を平和協定に切り替え、恒久的で強固な平和体制の構築のための北、南、米3者あるいは北、南、中、米4者会談の開催を積極的に推進することに合意しました。また北と南は完全な非核化を通じて、核なき朝鮮半島を実現するという共同の目標を確認しました。

北と南は北側が講じている主動的な措置が朝鮮半島の非核化のために非常に有意義で重大な措置であることに認識をともにし、今後、自己の責任と役割を果たすことに合意しました。

この歴史的会談は米国大統領トランプをして6月12日シンガポール会談を承諾させた上で決定的なこととなりました。

2018年6月12日、シンガポール会談

2018年6月12日、シンガポールで金正恩総書記とトランプ大統領は朝鮮にたいする安定保証の提供と新たな平和的関係の樹立、朝鮮半島の非核化と米軍兵士の遺骨送還、そして高位級人士間の後継協商をおこなうことを合意した共同声明に署名しました。首脳会談直後、トランプ大統領は米軍の「挑発的な」合同軍事演習を中断するだろうと公表し、米軍兵士たちが一定の時点に本国に帰ることを願うと指摘しました。

2018年9月19日、北南首脳会談

朝鮮民主主義人民共和国金正恩国務委員長と南朝鮮の文在寅大統領は2018年9月18日から20日まで平壌で北南首脳会談をおこないました。

会談で北側は東倉里ミサイルエンジン試験場とミサイル発射台を関連国の専門家の参観の下にまず永久的に廃棄することにしました。

北側は米国が6.12朝米共同声明の精神にしたがって相応の措置を講ずるならば、寧辺核施設の永久的廃棄のような追加的な措置を引き続き講じていくという用意があることを表明しました。

2019年2月28日、ハノイ首脳会談

朝鮮民主主義人民共和国金正恩国務委員長と米国大統領ドナルド・トランプは2019年2月27日から28日までハノイで会談をおこないました。会談以後、米国側は会談がすぐ終わり、何らの合意も見なかつたと宣布しました。

トランプ大統領は朝鮮民主主義人民共和国にたいする侵略的な軍事的行動の終息と共和国にたいする制裁解除、南朝鮮からの米軍撤退と軍事基地の閉鎖を拒否しました。彼は朝鮮民主主義人民共和国と停戦協定を平和協定に締結することを拒否しました。

ジョウ・バイドン大統領もこのような好戦的な政治軍事路線を引き続き堅持し強化しました。バイドン大統領は2021年2月にはシリアを、6月27日にはイラクを爆撃するようにしました。アメリカは南朝鮮をして朝鮮民主主義人民共和国との予備交渉と友好関係の樹立を中止し、侵略的な軍事演習に参加させるために南朝鮮大統領に政治的・経済的圧力を加えました。南朝鮮大統領はこの圧力に屈服しました。

2021年8月10日、定例的な「ウルチ・フリーダム・ガーディアン」米国・南朝鮮合同軍事演習が再び開始されました。演習のタイトルは依然として朝鮮民主主義人民共和国にたいする核戦争と侵略でありました。

今回の演習には 28000 名の米占領軍が参加した中、南朝鮮の 83 の米軍事基地で始まりました。

朝鮮の自主的統一のための国際的闘争を展開するというアピールは、北と南の勤労人民と全世界の国際平和進歩運動の理解と同意を得ました。

南朝鮮の広範な大衆運動は米国・南朝鮮合同軍事演習の終息と米軍撤退、南朝鮮における米軍基地の閉鎖、軍事基地が占めていた土地の返還を要求しており、国の平和と民主主義、統一を要求し発展しています。

全世界に広まっている 900 余の米軍基地にたいする閉鎖を要求する声がキューバ、日本、キプロス、ギリシア、セルビア、チェコ、ドイツ、そしてわが国であるベルギーなど、多くの国で響き渡っています。

朝鮮の統一は自主、民主主義の道にしたがって実現されます。北と南に存在する二つの社会制度がそれぞれ異なる条件で、北と南が賛成した連邦制は統一をなし遂げるための唯一の方途であるがゆえに、朝鮮の統一は平和的に実現されるでしょう。